



【霊的勝利者の条件(3) 正義の胸当】(ただイエスキリストの十字架の義によって!)

今日の聖書本文;エペソ人への手紙 6章10 -14節/ 暗唱聖句:ローマ人への手紙3章23-24節

愛する教会の家族のみなさん!一週間も主の平安の中でお元気で、過ごされましたか。

今日は特別に子供祝福の主日として礼拝をささげていますが、みなさんの子供たちの上、特に我々のクリスチャンプレイズチャーチにかよっている子供たちの上に神様の豊かな祝福と力と知恵をお与えて下さるように主イエスキリストの御名によってお祈り申し上げます。アーメン!

今日はわれらの人生の中、絶えず襲い掛かってくる霊的戦いにそなえて勝利者になるための三回目の時間で「正義の胸当て」について神様の御言葉を分かち合いたいと思います。先週の御言葉を覚えていますか。悪霊たちはただいまの礼拝の時間でさえも皆さんが神様の御言葉の前で集中できないように様々な考え、雑念などで妨げているかも知れません。急に体がだるくなって疲れを覚えているかも知れません。今週一週間も最善を尽くして頑張ってきたみなさん!もう一度礼拝において勝利者になりましょう。礼拝の時間からまけてしまうとまた一週間も勝利していくのにはもっとむずかしくなるではありませんか。! 今日礼拝の時間、神様に集中し、主の御言葉に心を開いて受け入れることにより、神様の臨在と恵み、癒しを体験されるとい時間になりますように心から祈ります。

< 本論 >

使徒パウロの時代、ローマ軍の胸当ては上半身を守るために6-7個の鉄がつながって造られたそうです。その胸当ての内側は動物の皮とかひもなどで結び付けられていました。敵の剣から心臓と体を守るだけでなく皮膚がやぶれないように首にまで、皮の保護巻きまでまいたそうです。当時の胸当ては20ポンドぐらいで、(1ポンド=約0.5kg=10kg)意外とかるいほうだったのでローマの軍隊が強くなるのにかなり貢献したそうです。敵軍が剣で、槍で、矢の攻撃で相手の軍人の体の中で一番突き刺しやすい、攻撃されやすいところが当然上半身です。軍人のお腹や胸のあたりではないでしょうか。何よりも心臓を守らなければなりません。胸当てはこのような様々な攻撃から自分の命を守るための一番大事な防御手段になります。

今日の御言葉ではサタンともろもろの悪霊たちの攻撃に対して正義の胸当てを胸に着けなさいと命令されています。

正義の胸当てはサタンの猛烈な攻撃とそしりに対して自分の身、自分の心、自分の信仰を守り、防ぐことが出来る防御手段であり、悪に対抗する強力な戦略武具となります。

みなさん! 悪魔のニクネームはなにか知っていますか。告発者です。

黙示録12章10節「黙示録12:10そのとき私は、天で大きな声が、こう言うのを聞いた。「今や、私たちの神の救いと力と国と、また、神のキリストの権威が現われた。私たちの兄弟たちの告発者、日夜彼らを私たちの神の御前で訴えている者が投げ落とされたからである。」には悪魔は日夜私たちを神の御前で訴えつづける告発者だと書かれています。日夜、たえず、しつこく告発することが悪魔の使命なのです。ですから悪魔に他人をあしざまに訴えるなというのは悪魔にむかって「おまえは死ね!」ということと同じです。

ところが、聖霊も私たちに罪を吾とらせ、罪が罪だということを知らせてくださいます。(使徒の働き2:37,ヨハネの福音書16:8)使徒の働き2章37節:「人々はこれを聞いて心を刺され、ペテロとほかの使徒たちに、「兄弟たち。私たちはどうしたらよいでしょうか。」と言った。」、ヨハネの福音書16章8節:「その方が来ると、罪について、義について、さばきについて、世にその誤りを認めさせます。」

するとサタンとの違いは何ですか。聖霊様は御言葉を通して私たちに光を照らします。ですから罪を悟らせるのみならず、私たちがかならず悔い改めに導き、やがて私たちを回復させてくださいます。聖霊の働きはかならず終りが実が良い結果になります。いつも私たちを回復させてくださいます。聖霊を賞辞する根拠は愛です。聖霊様は愛をもとにして私たちを回復させてく

ださるのです。

しかしサタンの告発は私たちを絶望させ、ついには死に至るまでさせます。サタンの目的はころすためです。決して神様の御言葉に訴えませぬ。人間の本能である感情といかりに訴えます。ですからいつも結果は良くないのです。

はたしていま自分の心と考えは聖霊から来るものなのか、サタンの攻撃からくるものなのかどうやってわかることができるでしょうか。それが愛なのか、憎しみなのか、自分を生かすものなのか、ころすものなのかで考えてみれば明確にわかることができます。

最近日本も世界にもうつ病の症状はますます深刻になっています。最近韓国でも若者たちも約4人の中一人がうつ病で苦しんでいると知らされています。日本もクリスチャン、ノンクリスチャン関係なくうつ病で悩んでいる人たちもたくさんいます。もちろん、こういうすべての精神的な病気が悪霊からとかすべてサタンの攻撃だと断定して話しては決して駄目です。それは大間違いです！気をつけてよく見極める知恵が必要でしょう。ただ度を過ぎるほど自分自身にたいする罪責感、劣等感、挫折、怒りと自己批判にとらえられ悲観的になってしまうため結局うつ病や引き籠もり、自殺などのたくさんの問題が最近急増しています。今日の御言葉通りにサタンは人の心を激しく攻撃していることは忘れてはいけません。

人の弱さに絶えず攻撃し、感情的になり、人の心が落ち着かず、全くコントロールができないようにします。あるいは罪責感にとらわれ、まったく無気力にさせ生きる望みを持たないようにさせます。みなさんはこういう時がありませんでしたか。

例) 19世紀アメリカの有名なD.L.ムディという牧師先生がいました。

ある日礼拝を終えたあとある青年がこの先生に尋ねてきてこう言います。“先生、私は罪人です。本当に私は罪人です。”と言いながら罪責感にとらえられ苦しんでいます。するとムディ先生が問います。

“あなたはイエスを信じているクリスチャンですか。” “はい、そうです！”

“そうしたら、聖書の御言葉通りに心からイエスキリストの御名によってその罪をすべて言い表し、その罪を憎しみ、その罪から離れることを決心しましたか。”すると、“もちろんです。何度もそうしました！でも私なんかの者が続けてイエス様を信じる資格はないと思ひまして、もう礼拝にも来ない方がいいのではないかと考えているのですが、どうしましょうか。”と言いました。

すると、ムディ先生はもう一度問います。“どうしたらイエス様があなたのすべての罪のために死なれあなたのすべての罪を十字架の血潮で赦されたことを本当に信じますか。”彼はもちろん信じていると答えます。

するとムディ先生は突然怒ります。

“それなのにあなたはいったい何者であってイエス様でさえわすれているのにあなたは覚えているのですか。イエス様でさえ許されたのにいったいあなたは何者であってまだゆるされてないと言っているのですか。”

ムディ先生からあまりにも厳しく言われたので、青年はとまどいながら“まあ、そうですね。そうですね..”と答えて帰ったそうです。単純なエピソードですが、けっこういろいろ考えさせられるのではありませんか。

愛するみなさん！もしみなさんの中でもいまだにも過去のくらいかげのため苦しんでいませんか。もちろん、罪を犯すことや、悔い改めることを今日のクリスチャンの中ではあまりにもかるんじく思ってしまう傾向はあるのでそれも気をつけなければなりません！しかし、心から自肅しつつ悔い改めた者に、イエス様がすでに全部ゆるしてくださって、いっさい覚えることがないとおっしゃているのならそれで全部清算済み！もう神様からの精算は終わったのです。なのにいつまでも、いったいなぜ自分自身はいつもその罪を覚えながら“私にはゆるしができません”と言いながら苦しんでいるのですか！それ自体は謙遜ではなく、却って不信仰の姿ではないでしょうか。神様がすでにすべてをゆるし、私たちの過去の罪を覚えていないと言われるのであれば、そうだと信じてこれから前よりも謙遜に感謝を持って生きるのがまことの信仰であり、不信者とは違ってクリスチャンが受けた神様の恵みではありませんか。！

愛するみなさん！覚えてください。悪魔はある人を非難する時、かならず、いまのことだけを訴えるのではありません。5年前犯した罪、10年前犯した罪、むかし小さな時犯した罪まで全部あばきます。

神様はイエスキリストの血潮によって私たちを義とされ、すべての罪を全部赦してくださったのに、サタンは決して私たちが犯した罪を忘れませぬ。そしてみなさんにいつも“おまえは救われる資格のない罪人だ。おまえはあやまちがありすぎる。おまえがどんなに努力してもおまえはどうせしぬだろう！”と挫折するようにささやきます。

みなさん! その時私たちはどうやって戦うべきでしょうか。その時、みなさんがいやだと否定すると戦いにはまけることになり
ます。悪魔の攻撃に私たちの言い返しはその通りだと認めることです。 “そうだよ!私はたしかに死ぬべき罪人だよ!!

サタンは牧師である私にでさえたびたび皮肉ったりします。'おまえのようななんじゃくなものが牧師なの!おまえのような罪人
が日本宣教、福音化をうんうんするな!

たしかに私自身も良心の呵責を感じるときも多いです。いくら考えてみても自分が牧師としてふさわしくないと思う時がしばし
ばです。牧師もみなさんと同じように人間であり、同じくなんじゃくな者です。足りないところも多く、あやまちも多く、自分自身
をさぐるといかに問題だらけなのかはずかしいと思った時も結構あります。牧会者もある時は神様と聖徒たちに申し訳なくて
講壇に立たされてもいいのかと思うほど大変な時もあります。

みなさん! このようにサタンからの攻撃が来るとき自分の功労、自分の経験、自分の努力で阻止しようとする十中八九(じゅ
うちゅうはっく)負けてしまいます。

しかし私はサタンからの告発にいったんそうだと認めます。私の場合はむしろもっと付け加えます。

“サタン、私はあなたが思う以上の罪人だ。!私はまさしくもともと死ぬべき、永遠の地獄に陥るべき罪人だ!あなたが訴えて
いる何倍ものも悪い罪人かも知れない。” しかしそこでとどまるわけにはいきません。次の段階には十字架立たせませんです。
“私は地獄に陥るべき罪人だが、イエスキリストは私のため死んでくださり、私の罪を赦して下さって、私を生かして下さり、
私はゆるされ、救われ、新たに生きる希望と使命を与えてくださったのだ。”と堂々と取り組まなければなりません。

つまり、自分自身は何の義はないが、イエス様が自分を義とされたということを証ししなければなりません。これがまさに正
義の胸当てをつけることです。“自分の義ではなくイエスキリストの義を”掲げることです。言いかえりますと、イエス様の十
字架をつかむことを意味します。正義の胸当てであるイエスキリストの十字架の義によって私たちはサタンからの攻撃をふ
せぐことができるのです。イエスキリストによる正義の胸当てを着けることにより、自分の行ける命が、心が、信仰が守られる
のです。

愛するクリスチャンプレイズチャーチのみなさん! 霊的勝利者になるため真理のおびをしめ、正義の胸当てをつけてください。
はげしい霊的戦いの戦場で私たちはイエスキリストの御名による清いプライドをもたなければなりません。この世は今も人間
的な道德基準で人を評価し判断します。

もちろん、私たちクリスチャンは不信者よりもっと道德的にも正しく、誠実で、模範にならなければなりません。しかしキリスト
教はけっして人間の義に基礎をおいたわけではないことを覚えましょう。だれがもっと道德的にただしいのか、もしかすると
神様の目では一緒かも知れません。飛行機の中で窓の外をみたことがありますか。一階縦のものも、10かい、50かい建物で
も上からみるとみんな同じ高さでみえるのではないのでしょうか。

罪人である人間同士がお互いにどちがもっと清いのか、どちがもっと正しいのかが神様に何の意味があるでしょう。

そういうわけですから、私たちがつかむべきのことは人間からではなくイエスキリストによる十字架の義をつかむべきです。

悪魔が私たちの罪を告発しながら攻撃して来るとき私たちは違うと否定する必要はありません。なぜなら私たちはまさしく
そのとおり、罪人だからです。しかしそのあと“イエス様が私を贖ってくださったのだから、あなたがいくら攻撃して来ても私は
もう大丈夫だ。”と堂々とすすむべきです。イエス様は私たちを贖って下さいました。イエス様が私たちを生かし、イエス様
が私たちを立たせてくださったのであればはたして私たちに怖がるものはありません。

一緒にローマ人への手紙3章20-24節を探し読んで見ましょう。

“:20 なぜなら、律法を行なうことによっては、だれひとり神の前に義と認められないからです。律法によっては、かえって
罪の意識が生じるのです。:21しかし、今は、律法とは別に、しかも律法と預言者によってあかしされて、神の義が示されまし
た。:22すなわち、イエス・キリストを信じる信仰による神の義であって、それはすべての信じる人に与えられ、何の差別もあ
りません。:23すべての人は、罪を犯したので、神からの栄光を受けることができず、:24ただ、神の恵みにより、キリスト・イエ
スによる贖いのゆえに、価なしに義と認められるのです。”

この個所の内容は“転移された義”について言われています。すなわち、自分が義人だからではなくイエスキリストの義が

自分に転移されて救われることができるということです。

当然イエスを信じているのにもかかわらず、今すぐ私たちの生活のパターンはかわらないかも知れません。今だにも自分の生活の現実には正しくないまま行うときが多いです。だから人の自分のいくらに行いによっても神様に救われるほど義と認められることはできず、その義も変わる不完全なものでしょう。しかし、イエス様の義のゆえにそれを信じる私たちは神様の御前では救われた義人だと認められているわけです。

正義の胸当ては我々の信仰の心、志し、神様からの使命などを打ち壊そうとする悪い霊のさまざまな攻撃や策略から私たちを守ってくれます。のみならず、この真理をつかんで前進して行けば、自分が守られ、私たちの家庭が生かされ、回りのたくさんの人々が近寄って来れる聖霊と福音に満ちる教会となれると信じます。福音が働かれる教会の信徒たちの顔は輝きます。みんなが罪人なのに“明るい罪人たち”“きよい罪人たち”になるのです。イエス様が私を救い出してくださったので、つかまってくださって、今も共におられ守ってくださっているのです。感謝があり、喜びがあるのです。

正義に胸当てを着けている人たちの特徴は一つです。それはイエスキリストの十字架のことを誇ることです。正義の胸当てを着けている人はイエスキリストがすべてを成し遂げてくださったことを誇ります。口をあけるとキリストの十字架を通しての罪赦しを誇り、イエスキリストの愛をを誇り、聖霊の恵みを追い求め、神に栄光を返す姿に変えられます。この姿こそが勝利が保証され、勝利を受けるものたちのまことの姿だと信じます。

こんにちの教会内には日夜十字架とイエスだけを掲げると言いながら、いざ自分自身を誇り、自分の経験を誇り、自分の奉仕と活動を誇る人々をみかけるのはむしろかしくありません。こんにち、多くのクリスチャンたちが弱くなった理由はここにあるのではないかと思います。福音の感激も、力もなく正義の胸当ては準備もせず、自分自身を誇りながら、胸には矢が立ったまま呻(うめ)いている信徒たちがいかにたくさんいるのかわかりません。

みなさん、一緒について言っていただきますか。

“もう一度生きる道はイエスキリストの贖いの十字架をつかむことです。” “イエスキリストの救いと愛の十字架以外には私には誇りはありません。”この信仰の告白を忘れないでください。私たちがこの世を生きている間、この信仰の告白こそが私たちを生かしてくださると信じます。

悪霊は今も私たちがより強くイエスキリストを信じ、礼拝し、御言葉と祈りを持つとすることに集中できないように妨害します。心が分かれバタバタするようにさせます。真理の帯を締めないようにさせます。分裂の霊たちが家庭と教会を惑わします。統合(とうごう)の力はなくなり教会が無力になっていきます。しかし私たちがもう一度強くなる秘訣があります。

一つの信仰、一つの愛にさせるキリストの十字架をつかんで御言葉と祈りの力を体験する神の人となる時こそ、悪霊をうちやぶる勝利を味わえると信じます。

<メッセージを閉じたいと思います。>

私たちが掲げるべきのことは十字架の義、神様の義です。そして同じ原則をもって他人をも、うちらの子供たちも認め立たせなければなりません。私も罪人であり、あの人も同じ軟弱な罪人ではないのか。しかし自分がイエスの義によって義とされているのであれば、あの人もイエスの義によって新しくかえられるということも同時に認め信じて下さい。そのように他人の存在も信じてあげればかならずキリストイエスあって自分自身も成長し、相手も変えられると信じます。

今日私たちは全身武具の中、正義の胸当てがとっても大切であることを教えられました。なぜなら私たちの胸を守り、命の脈がうつ心臓を守ることが正義の胸当てだからです。みなさんの心を一度見て見てください。みなさんの胸には正義の胸当てが着けていますか。胸を保護してくださるのはイエスキリストの十字架であることを忘れないでください。

そしてこれから自分の義ではない、イエスキリストの十字架をつかみ、イエスだけをほこり、イエスキリストの十字架中心の生活になってさらに勝利しつづけるクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族一人一人となりますように主イエスキリストの御名によって祝福します。アーメン！